

光受寺通信

NO.178

R5.11.1 発行
発行元 光受寺



年と共に月日の流れを速く感じるのは私だけでしょっか。生涯もこんな感じで終えてしまつのだらうかと思つと、一抹の心細さと淋しさが募ります。

同じ時代をともに生き、ともに仏法を聴聞してきたご門徒も、お一人、お一人とお亡くなりになり、世の無常を痛感せずにはいられません。

御文4帖の4通には「それ、秋も去り春も去りて、年月をおくるごと昨日もすぎ今日もすべ。いつのまにかは年老のつもりらんとおぼえず。しひれりき。ゝゝゝただいだいたずらにあかし、たすけらひらひらひら、きいのしらがとなりはてぬる身のあしさまいそかなしけれ。とありませす。

まことに身にしてみるお言葉であります。通称「白骨のお文」には、だからこそ「たれのひともしも後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、念仏申すべきものなり」と結ばれています。

しかし、今を盛りに生きている私たちにとっては「後生」と言われてもなかなかピンと来ないのが現実です。いつかは死ぬのだからと「終活」などを行っている人もいるみたいなのですが、せいぜいも身の周りの整理をし、遺産分けとか、葬儀の段取り程度のことだろつと思つてます。

ただ、いろいろ言つていふことはなつていふことではないのです。自分はいんなことのために生きてきたのではない、「死んでも死にきれない」という無念の思いを抱え、そのためにどんな生き方をし、何を手に入れればよいのかを、仏法に問つていく歩み「んが」終活「なのだろつと思つていふです。

令和5年度

報恩講のご案内

来月は報恩講があります。ここ数年は「コロナの関係で変則的な日程でのお勤めになっておりましたが、ようやく落ち着いた状況になってまいりましたので、光受寺の報恩講の本来のお勤めに戻したいと思つております。しかし、ただまだ完全には「コロナ」が終息してはいませんし、インフルエンザの流行も心配されますので、一応の予定としてのご案内をさせていただきます。(改めてご案内をさせていただきます)。

期日 令和五年十一月十日(日) 午前 九時三十分～十二時

午後 十三時～十五時

(お齋あります)

法話 倉住秀悟氏

門徒総会 報恩講当日 十五時～十六時

おみがき…十一月四日(月) 9時より

多くの方々のご参加、ご協力をお願いいたします。

今月の掲示板

たいぎょう
大行

親鸞聖人は称名念仏のことを「大行」と言い表されました。大とは人間からなされる行為ではないとつて意味です。

妙好人の浅原才一さんは「声の声」と表現されましたが、私が発するものじゃない。向こうからやって来た阿弥陀さんの声が、私を通して声となったものだつていふのです。つまりそれを「声の声」と受け止められ表現されたと思われれます。



お寺サロン紹介される。

岐阜高山教区より、発行された『岐阜同朋』に廣専寺の若さんと光受寺の共同企画で始めた「お寺サロン」が紹介されました。



来月でちょうど一年が経つこのお寺サロン。若院たちの熱意によって継続されてきました。

これからのお寺の在り方についてご門徒さんとの関りを大切にしながら、さまざまなテーマを設け、話を聞き、話し合い、お茶を飲みながらの歓談もしています。時にはサロンに出席されている方の指導による軽いストレッチ体操や、専門家による補聴器の話なども組み入れながら、幅広い内容で楽しんでいただいています。

今回(十月)はご門徒からのご質問から、「般若心経」を讀んでもよいかどうかに対してお応えする話から始まり、『正信偈』の最初の4句の学習へと進んでいきました。

意外に知らない仏教用語



「有頂天(うちょうてん)」…気持ちの上では最高の境地を言い表す言葉だとは思いますが、仏教では最高の迷いを表す言葉なのです。

それは全ての人は平等にこの大地で互いにつながりながら生きている世界から、自分一人だけ高きへ上ることをよしとする生き方からです。

さまざまな現実問題に関わらないで、有頂天の世界に安住してしまう、いわば閉ざされた世界を言っているのです。

六道でいう、「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上」の天上も、同じ迷いの世界を言っているのです。

光受寺学習会 十一月十八日(土) 午後二時～三時半

今年最後の学習会になります。現在『歎異抄』を学んでいます。来月は「第6章」を学びます。歎異抄を学ぶと真宗の教えがよくわかります。ぜひお気軽にご参加ください。テキスト等用意いたしております。——生に一度は歎異抄を讀んでみましょう。——

来月は「一周年記念」

光受寺にて

令和五年十一月十六日(木) 午後2時～

3時ごろまで



如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も骨を砕けても謝すべし

御願、

「仏教小断」に続き光受寺若坊守、柴間麻利絵による「エレクトーンミニコンサート」として、かつて光受寺御遠忌に「光受寺合唱団」として披露した「仏教讃歌」や、「歌謡曲」なども演奏し、参加者と共に大いに歌い、楽しみたいという企画です。

ぜひ多くの皆さんのご参加をお待ちいたしております。 ※ 十一月はお休みです。

光受寺通信記事募集中です。ふと思ったこと、気づいたことなど、どんな内容でも結構ですので、ご寄稿いただけたら有難いです。